

美瑛富士トイレ問題の解決に向けて

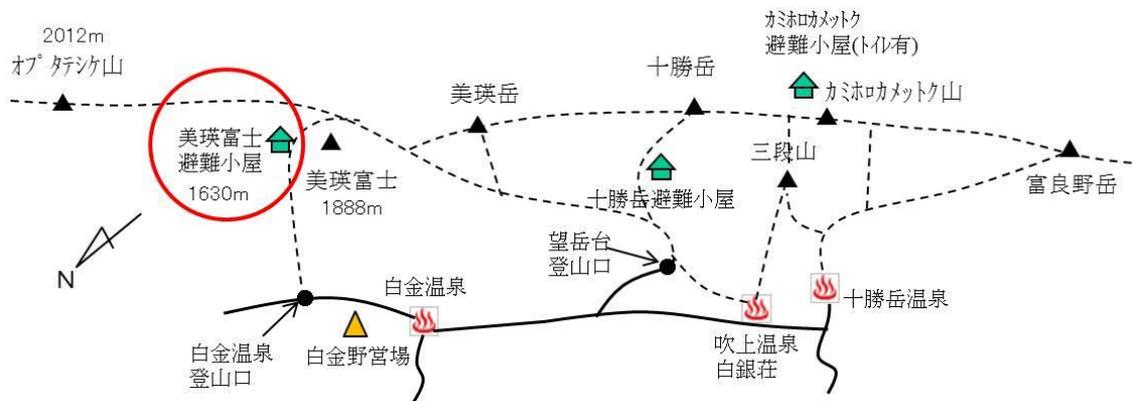
仲俣 善雄（山のトイレを考える会）

1. はじめに

北海道の山岳地において避難小屋があり野営指定地でもある所で、唯一トイレの無いのが十勝岳連峰にある美瑛富士避難小屋です。小屋周辺は当会発足時（2000年）から排泄物や使用済みティッシュの散乱が問題視され、2004年9月に当会主催の美瑛富士清掃登山、2005年～2006年にかけてトイレ設置に向けた署名活動を実施し、要望書とともに環境省と北海道へ提出しました。

また、当会では美瑛富士避難小屋に似合うトイレを提案し、問題解決に向け検討してきましたが、トイレ設置に至らず、そのままの状態が続いています。

毎年、山のトイレデーや美瑛山岳会等の山岳団体が避難小屋周辺に散乱した汚物やティッシュを回収していますが、同じ状況が繰り返えされています。



(図-1) 十勝岳連峰概念図

2. ティッシュ散乱ワースト3

北海道の山のティッシュ散乱ワースト3は、個人的には①トムラウシ南沼野営地 ②羅臼岳の羅臼平 ③美瑛富士避難小屋周辺と思っています。

それでも①は携帯トイレブースが設置され、短縮路登山口にはバイオトイレと携帯トイレ回収ボックスが設置されています。②は2008年から関係機関が連携して携帯トイレの利用促進を行っています。登山口にはトイレと携帯トイレ回収ボックスがあり、2009年からはテント型携帯トイレブースを銀冷水に設置して試験運用をしています。また、ホテルや木下小屋等で携帯トイレの購入を可能とするなど推進に向けた環境整備を着々と行っています。

③は白金温泉登山口にもトイレはなく、野営地を含め未だに何も対策が討たれていな

いのが実情です。



(図一2) いつになったら綺麗になるか

3. 美瑛富士避難小屋トイレ設置の見通し

環境省作成の「大雪山国立公園管理計画書」(2007年6月)公園事業取扱方針の中での美瑛富士避難小屋については『トイレの設置、構造、処理方法、維持管理の体制等について検討を行う』と書かれています。

過去のフォーラムの発言では環境省はトイレ設置をしてもよいが、維持管理が永続的に担保されなければ設置はしないとの見解です。

所有者である美瑛町にも数回訪問して担当者と意見交換しましたが、設置費用、維持管理費用など財政的な問題もあり設置は困難との見解です。避難小屋の維持管理を自主的に実施している美瑛山岳会は高齢化が進んでおり、永続的なトイレの維持管理は無理であるとの考えです。

トイレ設置はこれらの経緯を見てもかなりハードルが高く感じています。

4. 美瑛富士避難小屋と野営地の利用者数

美瑛富士避難小屋と野営地の利用者数はどのくらいなのでしょう。『大雪山・山小屋とトイレの仲間』(佐藤文彦氏、中村直弘氏等)による小屋内でのカウンター調査で年間宿泊・休憩者数は481人(2003年)との第5回フォーラム報告があります。

また、第10回フォーラム資料集では当会事務局長である愛甲哲也氏の「美瑛富士避難小屋の利用状況の推計について」の中で“推定登山者数は約850人。テント泊も含め宿泊者数は約300人。500人以上は日帰りでオプタテシケ山の往復などをしていると推察される”(2004年～2007年調査)との報告があります。

大雑把ですが黒岳2万人、羅臼岳1万人、利尻山1万人、幌尻山3,500人の登山者数と比較するとかなり少ないことが分かります。

5. 携帯トイレ導入についての提案

美瑛富士トイレ問題が提起されてから、既に13年が経っていますが改善に向けた対策が何もしられていません。2009年道岳連主催の美瑛富士避難小屋周辺での清掃登山実施報告では「今できることを実践する現実的な面で考えなければならない」と携帯トイレ持参を提起しています(第11回フォーラム資料集62ページ)。私も同感です。

美瑛富士トイレ問題解決に向けた次善の策として、携帯トイレ使用推進地とすることを提案します。導入に当たっての課題を上げてみました。

(1) 携帯トイレ回収ボックスの設置について

美瑛富士避難小屋や野営地の利用者は、主に白金温泉登山口からオプタテシケ山を目指す人、望岳台から雲の平や美瑛岳経由でオプタテシケ山に登頂する人です。縦走を除くと登山口は2つに絞られます。

美瑛富士避難小屋で携帯トイレを使った人は、白金温泉登山口に回収ボックスがあれば助かります。北海道の人は車で自宅に持ち帰ることも可能ですが、本州からの登山者は回収ボックスが無いと困ります。名古屋のツアー登山で美瑛富士避難小屋に泊まった人が携帯トイレを使ったが、その処分に大変困ったと言う話を聞いたことがあります。

設置はともかく維持管理、そして最終処分は美瑛町に全面的に協力してもらうこととなりますが、是非、前向きに検討していただければと思います。

【特記】白銀荘の携帯トイレ回収ボックスについて

所有は上富良野町です。鍵が掛かっていますが、白銀荘のフロントで鍵を貸してくれます。この方式はゴミの不法投棄を防止できるいい方法だと思います。

美瑛富士の場合の設置場所は愛甲哲也氏も提案している白金温泉の白金観光センター案内所付近がよいのではないかと思います。



(写真-1) 白銀荘のキャンプ場前にある携帯トイレ回収ボックス

(2) 携帯トイレブースの設置について

携帯トイレブースは利尻山、トムラウシ南沼、ニペソツ山の前天狗に夏期のみ設置されていますが、運搬固定作業は大変な重労働です。設置と維持管理を美瑛山岳会や他に引き受けてくれる団体があるかどうかです。

仮設テント型携帯トイレブースを小屋裏に設置するのはどうでしょうか。強風に耐えられる工夫は必要ですが、排泄時の植生の踏み荒しもなく割と容易に設置できますので、検討に値すると思います。

(3) 登山口トイレの設置について

白金温泉登山口にトイレがあればベストですが、設置の費用負担と維持管理が問題になります。登山者が白金温泉街公衆トイレや登山口手前の国設白金野営場などで事前に用を済ませることもできます。いずれにしても登山口トイレの設置について検討が必要です。

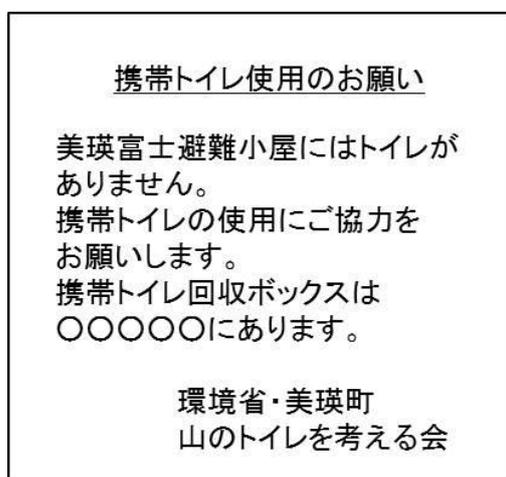
(4) 携帯トイレの入手について

携帯トイレを白金温泉街の商店や宿泊施設等で購入できる体制を整えることが望ましいのですが、その為には商店や宿泊施設等との折衝や登山者への周知が必要になります。

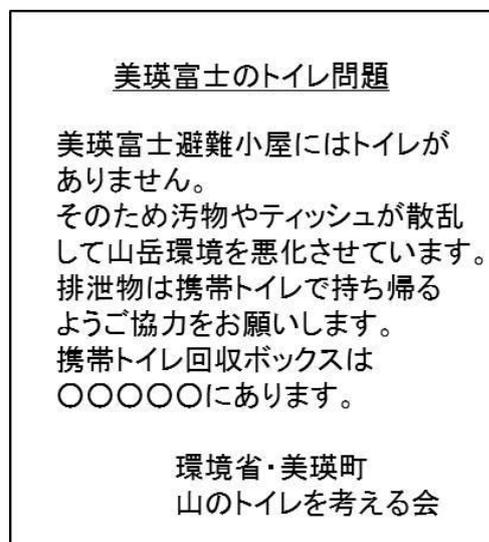
(5) 登山者への周知について

新聞、テレビ、チラシ、ホームページでの周知などあらゆる手段と機会を捉えて、携帯トイレ使用推進地であることを登山者に知らせ、利尻山と同じように美瑛富士避難小屋では携帯トイレを使うことを常識化する必要があります。

野営地に看板を立て通過者や野営地を利用する人に知らせ、避難小屋内にもその旨掲示して周知します。また、登山口でも携帯トイレ使用推進地であり、回収ボックスの設置場所などを知らせる看板が必要です。



(図-3) 野営地の看板イメージ



(図-4) 登山口看板と小屋内掲示イメージ

6. 導入効果を評価する仕組み

携帯トイレの使用推進施策により、効果が上がっているのか、経年的な評価が必要です。評価方法としては次の項目が考えられます。

- ・山のトイレデーや山岳団体による清掃登山の機会を捉えて、ティッシュの数をカウントしてデータとして残す。
- ・回収された携帯トイレの数をカウントしてデータとして残す。
- ・毎年の登山者数、宿泊者数を把握する仕組みを作りデータとして残す。
- ・機会を捉えて、登山者へ携帯トイレに対するアンケートを収集する。

7. 美瑛町のメリットは？

いろいろな面で管理主管となることで負担が増える美瑛町の「なぜ遊びで登山をしている人のために美瑛町の税金を使わなくてはならないのか」との素朴な疑問に答える必要があります。美瑛町にとってメリットは無いのだろうか？

美瑛の丘の美しさは全国的にも有名で多くの観光客に人気があります。「美瑛町では全国から訪れる登山者に美瑛富士避難小屋において携帯トイレの使用を呼びかけ、山岳環境保全にも力を入れている先進的な町である」と“清潔で美しい町をアピール”するイメージアップ戦略の一つとならないでしょうか。

私の無い頭で考えた携帯トイレ導入の負担に対する唯一の答えです。

8. 環境省と北海道への要望

2006年にトイレ設置の署名と要望書を環境省と北海道に提出し、その後も毎年のようにフォーラムでもテーマとなり話し合いが続いていますが、環境省や北海道から、美瑛富士トイレ問題解決に向けた具体的な提案がなされていません。

大雪山国立公園の避難小屋やトイレは設置者の北海道が維持管理をしていますが、同じ国立公園にある美瑛富士避難小屋と十勝岳避難小屋は美瑛町です。これらの負担に加え、今回提案の携帯トイレ導入を実施するとなると、さらに町の負担が増えることとなります。

このことから美瑛富士トイレ問題解決に向けて、環境省と北海道は費用負担も含め、よい方法を模索し、改善に向けた役割分担を真剣に考えて欲しいと思います。

9. おわりに

誰だって他人の排泄物や汚れたティッシュを見るのは嫌ですね。ましてや他人の排泄物やティッシュを回収する清掃登山では、息を止め顔を背けて拾います。下界では犬の糞もみなさん非難します。私も山のトイレを考える会で活動する前はティッシュを持ち帰ること、携帯トイレがあることについて全く知りませんでした。

登山者はこれらについて「全く知らない人」「知っていてマナーを守る人」「知って

いてもマナーを守らない人」に分かれます。

人間は誰も見ていない時のマナーが問われます。「誰も見ていないから、まあいいや！」が積もり積もったのが美瑛富士避難小屋周辺の実情です。

携帯トイレの使用は、勇気が入り、究極のマナーです。一度使えば慣れてしまい、その都度清々しい気持ちになります。知らない登山者に対しては、啓発活動を地道に行うほかありません。

2013年度は、携帯トイレ導入に向けた準備期間として関係者による課題の洗い出し、対策、費用、役割分担、工程表を検討します。そして合意を得た上で2014年度に本格導入をするスケジュールを提案します。

これらの検討にあたっては、国立公園内の山岳環境改善についてであることから、環境省がイニシアチブをとってやれないものでしょうか。

環境省、北海道、美瑛町と美瑛山岳会、各種山岳団体、登山ガイド等、関係者の皆さまのご理解とご協力、そして行動を切に願いたいと思います。

当会としても本格導入が決まれば、携帯トイレ回収ボックス、仮設テント型携帯トイレブース、周知のための各種看板製作費用などの助成金獲得にチャレンジしたいと思います。

(特記) 本投稿は筆者の個人的な提案で、山のトイレを考える会の合意を得たものではありません。

以 上

(参考文献)

- ・内藤美佐雄：十勝岳連峰トイレ事情－美瑛富士避難小屋周辺を中心とした実情報告－：第5回フォーラム資料集 23-25
- ・片山徹：大雪山白雲岳避難小屋のトイレ利用状況ほか：第5回フォーラム資料集 15-16
(この報文の中に佐藤文彦氏らによる美瑛富士避難小屋のカウンター調査結果がある)
- ・愛甲哲也：美瑛富士避難小屋へのトイレ設置をめざして：第7回フォーラム資料集 33-36
- ・仲俣善雄：美瑛富士避難小屋に似合うトイレと管理について考える：第7回フォーラム資料集 37-43
- ・愛甲哲也：美瑛富士避難小屋の利用状況の推計について：第10回フォーラム資料集 25-28
- ・菅原修三、笈田孝俊：平成21年度清掃登山 美瑛富士避難小屋の報告：第11回フォーラム資料集 59-62